

会議録

会議名	令和4年度（2022年度）第1回八王子市文化財保護審議会
日時	令和4年（2022年）5月24日（火）18：00～20：00
場所	八王子市役所 本庁舎 8階 801会議室
出席者	<p>【委員】 相原悦夫会長・加藤哲副会長・青木淳委員・岩橋清美委員 内野秀重委員・小林直弘委員・紺野英二委員・津山正幹委員 西川広平委員・野嶋和之委員・堀江承豊委員</p> <p>【事務局】 叶清文化財課長・秋山和英日本遺産推進担当課長・ 岡部雅洋課長補佐兼主査・河津美穂子主任・吉村航季主任・ 庄山智穂主事</p>
欠席者	阿部朝衛委員・中村ひろ子委員・本間岳人委員
議題	<p>1 報告事項 (1) 令和4年度4月の人事異動について (2) 令和3年度の事業報告について (3) 令和4年度の予算概要について (4) 八王子車人形の国文化財指定について</p> <p>2 協議事項 (1) 考古資料の指定に関して (2) 新指定の候補について（事務局提案） ア・中郷遺跡出土小銅鐸 イ・館町龍見寺地区出土経筒</p> <p>3 その他</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人	0人
配付資料	<p>1 文化財保護審議会次第 2 報告事項資料 3 協議事項資料 4 参考資料</p>
会議録	要点筆記とする。

開会

事務局より、配布資料確認及び令和3年度第2回文化財保護審議会会議録草稿の確認依頼

報告事項(1) 令和4年度4月の人事異動について

4月1日付人事異動の転出・転入者を紹介

(叶文化財課長挨拶)

(秋山日本遺産推進担当課長挨拶)

4月1日付新規採用同14日付配属職員紹介

(庄山主事挨拶)

相原会長

4月の人事異動につきましては、ただいま説明がありました。新しい体制で、これからまた1年間よろしく申し上げます。

今回は、報告事項は次第のとおり4点、その後に協議事項が2件ということで、会議を進めていきたいと思っております。事務局から説明をよろしく願いいたします。

報告事項(2) 令和3年度の事業報告について

(河津主任より、令和3年度の各事業実施状況を報告)

報告事項(3) 令和4年度の予算概要について

(岡部課長補佐より、令和4年度の当初予算について、説明)

報告事項(4) 八王子車人形の国文化財指定について

(河津主任より、八王子車人形の国重要無形民俗文化財指定について説明)

相原会長

事務局から、令和4年度並びに3年度、それぞれ事業報告がありました。車人形の指定等も含めて、一括で何か御質問ありましたら、どうぞ。

内野委員

八王子城跡の用地取得の件ですが、これは所有者の申出があつて買っているのか、それとも計画的にやっていたらいいのか。もう少し説明いただけたらと思いました。

岡部課長補佐

八王子城跡に関しましては、管理計画で要害地区を中心に根小屋地区も含めて市で史跡の範囲内を購入していくとなっておりますが、令和3年度につきましては、所有者の方からの申出があつて市で検討をした上で買ったという経緯がございます。

加藤副会長

要害地区の購入は、ここで聞くのは初めてぐらい珍しいことかと。いつも根小屋地区とかでした。差し支えなければ、要害地区のどのあたりを購入したのか教えてください。

岡部課長補佐

八王子神社の鳥居から参道を登っていくところの左側、金子曲輪の辺りから御主殿の方にかけてのところですよ。

加藤副会長

登山道といいますか、道自体は、まだ購入はされていないですね。

岡部課長補佐

道自体は恐らく赤道（あかみち）で、神社の参道として、神社で管理されています。その道を買うという話にはならないかと考えています。

加藤副会長

最近ネットなど随分いろいろなところで八王子城が紹介されています。その中で、参道に近代に作られた排水用の溝だと思うのですが、あれを戦国時代のものだと誤認して、こんなところに遺構があるという話が広まりつつあるようです。そのあたりも、市がどの程度管理できるのか。もしできれば、参道を少し整理して登りやすくするとか、少し考えたほうがいいのではないかなと思っています。

岡部課長補佐

令和4年度の購入の土地は、3年度に購入した部分の続きを予定していますので、今後そこをどう管理して、また整備していくのか考えていく予定です。

相原会長

ほかにありますか。

西川委員

予算が増額した一つとして、郷土資料館で新しく職員をお一人増やしたという話がございましたが、これは、新博物館に向けた動きの中での増員ということなのでしょうか。

岡部課長補佐

そうです。資料整理のため、もともと郷土資料館の予算で短期間任用している方を、通年にすることにしました。新郷土資料館が完成するまでの間に、資料を整理していく中で、やはり人手をかけないといけないということでの増額になります。

西川委員

これから、多分いろいろな作業が待っていると思いますので、計画的に体制のほうも整備をお願いしたいと思います。

紺野委員

車人形の国の指定、お疲れさまでした。

資料の3の4、伝統芸能の保存・継承の(2)で車人形と説経浄瑠璃のことが載っていますが、説経浄瑠璃の後継者育成について、こういった取組をやられているか教えてください。東京都で指定された際は、車人形と説経浄瑠璃はセットで指定されていますが、ここで車人形だけ目立ってしまって、説経浄瑠璃が寂しい感じになるとよろしくないかと思っておりますので、後継者育成の取組等を教えてください。分かる範囲で構いません。

河津主任

ふれあい財団の主催で後継者育成講座をやっています。毎年受講生を募集して、何回か練習を行い、大体2月頃に発表会をするという形です。講座限りの方もいますが、説経節の会に入って引き続き活動する方もいて、その輪は広がっています。親子で受講している例もあります。関連して、個人で練習用の三味線を新調や、舞台上に上がるときの紋付袴を用意するのは厳しいので、会で持てるような補助金の確保もしております。

紺野委員

ありがとうございました。

相原会長

日本遺産センターができて約1年にそろそろなります。入館者の傾向はどうでしょうか。

河津主任

上野町の郷土資料館から比べると、ふらっと寄って行くお客様が非常に多く、土日は大体いつも100人以上来ています。平日は、午前中の早い時間は少なめですが、その時間帯に学校

見学に来ていただけるようにしています。

それから、日本遺産を勉強するというので、今まで郷土資料館の団体見学が多かった3年生、6年生以外の学年や中学生など、今までとは違うお客さんが来ているという印象です。

叶課長

具体的な数字としては、6月の開館から2月いっぱいまでの資料で3月分が抜けておりますが、約2万9,000人近い方が来場されております。

相原会長

コロナ禍の中では、順調にどうか、ある程度認知度も向上してきたのではないかと思います。

ほかにありますか。御質問は。

協議事項（１） 考古資料の指定に関して
（２） 新指定の候補について（事務局提案）

相原会長

ないようでしたら、協議事項に移ります。事務局から説明をお願いいたします。

（河津主任より、市指定と都指定の考古資料の指定状況を説明。市指定の考古資料のうち、2件の指定見直しの提案と、新八王子市史の成果を受けて、考古資料を新指定する方向性を提案）

相原会長

ただいま事務局から、考古資料の指定の経緯、いろいろな課題を総括的に説明していただきました。何か御質問ございますか。

紺野委員

資料を見させていただきました。中郷遺跡の小銅鐸は、都内でも2例目の出土で、弥生時代のものとして大変貴重であるという位置づけになってはいますが、同時期のものとしては、きちんとした発掘調査報告がなされていない状況ではありますが、館町遺跡の鏡のほうが東日本という規模で見ると珍しい、どちらかというと優品ではないかという気はしています。また、考古学史的な意味合いで言いますと、大正年間に東京府で調査・報告書に掲載された饅頭屋穴の銅碗と太刀があります。太刀は柄の部分に銀線がまかれている非常に優品なのです。そういったものも候補にさせていただいたほうがよろしいかという気はしています。続きまして、龍見寺の経筒ですけれども、市史編さんの調査の過程で、版本、それから別の経筒の破片などが見つかっています。そちらも寄託もしくは指定ということをしてらんで、出

土品を指定されるのか、また現地に経塚の遺構が確認できるかどうかについても追加調査をされるのか、そういったことも教えていただきたいです。

あと、既に指定されている文化財についてですが、白山神社については、経本もありますし、奥書もあり、大変貴重なものかと思っています。

また、宇津木向原遺跡方形周溝墓出土品につきましては、発掘 50 年をきっかけに東京都でぜひ指定をしたいといういきさつがありました。宇津木向原遺跡の調査は、市内の有志、都内の大学の学生を集めて、夏休みとか冬休みを使って調査をしたことが知られています。考古学史的に現在の体制とは違った意味合いでの調査の出土品という面での指定になっているのかと思います。あと、井上コレクションは、元の郷土資料館が、この資料を保存するため、もしくは公開するための博物館としてオープンした経緯がありますので、そういったことももうちょっと触れていただきたいなという気はします。

ちょっと長くなりましたけれども、私が今感じたことは以上であります。ありがとうございました。

相原会長

ほかにありますか。

小林委員

建造物は地方的な特色みたいなことをよくいって市の指定にしていくのですが、今回指定候補として挙がっているものは、今、紺野先生のお話を聞いていると、日本の中の位置づけをしているみたいな感じに聞こえてきて、八王子としてはどういう位置づけなのか、市の指定文化財にするのはそういう意味だと思うのですが、その点、指定の方針の方でどう考えているのか教えてください。

河津主任

遺物については、今の八王子市域限定ではなく関東地方ですとか、多摩地域ですとか、そういった範疇の中で特徴的のもの、という見方になるかと思います。

小林委員

そうすると、都の指定を受けさせたほうがいいのではないですか。

河津主任

今の八王子市で出ているので、まずは市で指定ということで。

小林委員

八王子の指定をするのはいいと思うのですが、目指すところは都の指定なんじゃないかなと思うのですが。先ほど都の新指定で市の指定を飛び越えて指定されているものがあると

お聞きしたので。

紺野委員

饅頭屋穴出土の銅碗と太刀については、以前私が郷土資料館にいたときに東京都に話をし
てありまして、学史的な成果というものを鑑みて、できれば指定していきたいというのが都
の担当者の話でした。東京都の中で優先順位をつけていくということで、まだ指定にはされ
ていないのかと思います。

また、残念ながら館町遺跡の鏡は報告書の印刷部数が少ない都合もあり、あまり知られてい
ないです。鏡としても、一部欠落している状態で、人によってはぼろい鏡に見えてしまうとい
うこともあります。研究をされる方の目から見ますと、間違いなく優品であるというよう
なコメントで研究材料とされたこともございます。

八王子らしさというと、ちょっと難しいかと思いますが、この小銅鐸につきましては、悪い
ものではないと私はと思いますが、この写真の釣手のところ、少し白っぽくなっているところ
は欠損していて、修復してから保存処理をしているもので、修復前の実測図とかがないと完
形と誤解されやすいかというところはあります。

小林委員

こうした資料の中で、例えば都の指定とか国の指定を目指せますよということを書いてお
いていただくと、先ほどの報告書が少ないというのも、都の指定を目指すから、普及啓発の
ために市で費用をもって増刷しましょうといったバックアップなど、動きやすくなるのか
なと思うのですがいかがでしょうか。

河津主任

市の指定で都にアピールするという意図はあります。都の動きも伺いつつ、饅頭屋穴の出土
品もいずれ市の指定候補として上げさせていただこうと考えています。

小銅鐸は、新宿区は早々に区指定にしていますが、八王子のは出土した時は注目されたので
すがその後、何にもなくて。去年調布で都内3例目が出土して、ここでまた小銅鐸が脚光を
浴び、新宿区で9月から12月にこれら三つの小銅鐸を紹介する展示があるので、話題にな
っている今、ということで指定候補にあげています。

館町の経筒は、新八王子市史で龍見寺伝世品の経筒が紹介されたので、今後それをどう位置
づけをしていくかを考える中で、まずこの出土品を指定し、龍見寺周辺から平安末期から中
世にかけての遺物が出ているということを改めて注目をしてもらって、今後の弾みにして
いこうという考えがあります。

小林委員

私、全く異論はないのですが、指定を目指しますぐらいは、言ってもいいような気がします。

内野委員

私はこの指定の方針の話でいいと思います。

河津主任

八王子の考古資料につきましては、新市史編さん事業で一応の整理がされたことを機として、改めて見直して、知らしめていくきっかけになればということで指定を考えていただけたら、というのが事務局としての考えです。

相原会長

八王子の場合、考古資料は郷土資料館を建設するに当たって、昭和 39 年に集中して指定をただけで、そのままずっと現在まで来ている。ただ、その後も発掘は随分しているのですね。それに伴う出土品の指定を、指定案件として出されてくればよかったです、それはないままずっと来た。だから、そういったことを含めて見直しをして、なるべく平準化するというふうに、これから先、作業を進めていくのが一番よろしいと思います。

ほかにありますか。

西川委員

確認ですが、既に指定されている、弥生式土器とか縄文式土器については、一括となっているものを 1 点 1 点個別に指定し直すかというような話でしたね。呼び方自身が今、時代的にそぐわない形になってきているので、いずれにしろ何らかの見直しが必要だと思います。縄文式土器は 2 点と具体的に数字を把握されているからいいと思いますが、弥生式土器は、宇津木向原遺跡の住居跡と、原屋敷遺跡の出土土器、遺跡ごとにまた一括とすることで対応されるということでしょうか。

河津主任

発掘史的な話では、今の行政主導とした調査体制が整っていない時代、開発行為が優先されてどんどん遺跡が壊されていく中で、市内の学校が部活動で熱心な教育者の指導の下で、八王子の弥生時代住居跡が初めて掘られたということが重要です。何を重視するかによって、八王子工業が掘ったという括りでこのまま維持し続けるか、八王子工業が掘ったけれど出土遺跡が違うからそれぞれの遺跡に分けるのか、意見が分かれるかと思います。現在では、市内の弥生時代住居跡から出ている一括資料となりますと、もっと数も品もそろっているものもありますし。八王子全体の考古資料の中で、これを改めてどう捉え直していくのか、先生方に御検討いただき、御意見を伺いたいと思います。

西川委員

この当時の調査に関係する資料や一括指定された経緯に関係する資料というのは、把握されて、保存されているということで理解してよろしいですか。

河津主任

今の発掘報告書と情報量や精度は違いますが、ある程度経過は分かる形で、旧市史の下巻など、資料はあります。

西川委員

そういった論文や資料もきちっと保管、管理してこぼれてしまうようなものがないように御対応していただければよろしいのかなと、思いました。

野嶋委員

今日は小銅鐸と龍見寺の経筒の指定をしたいというのと、2件の一括のものについて、分けてもう一度指定をし直すのかということが議題なのでしょうか。

私はこの二つや、昭和39年の指定のものを今どうするという話だけでなく、ほかの考古資料全部について、全然指定していないわけですから、例えば、希少価値があるなり、優品であるというようなものをどうするのか、一回では無理かもしれませんが、進め方も検討していただいてもいいかと思えます。

岩橋委員

指定するときにはリストをきちんと作る。考古学の案件に関しては、ここから上に関しては市指定でいきましょう、ここから上は都指定目指しましょうとか、そういった整理して、きちんとやっていく。その上で皆さんの御意見を出していただくという段取りではないかと感じました。

ただ、今日出されているこの案件は、多分レベルの違うものなのだろうと思えます。

河津主任

この2件は、ほかの候補案件と違って今注目されている面があり、特徴的なものとしてあげられるとお見せしているのです、指定候補はこれしかないというわけではないです。弥生式土器と縄文式土器のことについては、どう整理して、今後この時代のものをどうしていくかというのを、御意見を承りたいです。

加藤副会長

考古資料として遺跡が違うものを一括にしておくことがどうか、ということだと思いますが、別々にしてしまうと文化的な意味が失われるのでは。学術的に捉えるならば、分けないほうがいいと思います。縄文式土器一括ではなくて、例えば、八王子工業調査資料という形に指定名を変えとかですね。これは伝来も含めて文化財である。50年前の調査自体がもう大きな出来事と捉えていったらいいのではないかと思います。

河津主任

発掘調査史の中でとても重要だと思いますが、弥生式土器、縄文式土器という現在の名称は、現状、見直しが必要ではないかと考えます。そこを先生方の御意見を伺って整理し、現在までの発掘調査成果の中から、縄文や弥生時代の遺物を市の文化財としてどうしていくか検討していきたいということが一つ。単品で特徴的なものとして小銅鐸と、伝世品などの関連文化財がある資料として、龍見寺の経塚の出土品を今回指定候補としてあげました。それを踏まえて、改めて新指定の候補の説明をさせていただいてよろしいでしょうか。

相原会長

今、加藤先生がいわれたように文化史というカテゴリーの中で基準をつくってやるのも一つの方法ですね。その時代を象徴するような発掘事例が、八工の事例であるし、二商の事例であると。それは一つの考え方として反映させていったらいいと思います。

(小銅鐸、館町龍見寺経塚出土品の原資料を実見。出土状況や関連資料について河津主任より説明)

河津主任

小銅鐸につきましては、本日欠席の阿部先生より、同じ住居跡から出た土器等があれば一括指定という考えもあるのではないかと事前に御意見承っております。

紺野委員

経塚は通常、工事中の出土という事例が多く、そういった意味合いでは龍見寺の経筒も発見当初からしっかりと記録を取り調査されているということで重要かと思えます。

相原委員

銅鐸というと、どうしても関西のほうですね。

紺野委員

関東にはああいう装飾の立派なものはないですね。飾りつきの大きいものというのは格付を行うために大きくしたものと位置づけられていまして、実用品としてはもともと小さいものじゃないかと考えられていますね。

青木委員

経筒は大体 12 世紀頃ということですが、間違いはないのでしょうか。類似した出土品というものの中に、この版本の光明真言が入っていたといいますが、版本でしっかりしたものが出だす時期と 12 世紀というのはちょっとずれている。

河津主任

お寺では経塚に収蔵されていたと言っていますが、この筒に入って地面に埋まっていたことはないと思います。

青木委員

伝承のようなことは、ここに書いておくと記録が残って誤解を招きやすく危なっかしいという印象を受けました。

内野委員

出土しているものを改めて調査しても、分からないですよ、これ以上。そうすると、信憑性みたいなところで、文化財の指定をしまっていいのか、これ僕はすごく疑問に思ってしまう。けれども、文化的に考えると、それはそれで大切だよとなる。結局、最初の方針の話になってしまう。今は登録文化財などもできて、新しい指定基準、指定区分が出てきていると思うのですが、八王子でもそういったことを踏まえて指定をしていくのですか。

紺野委員

私は郷土資料館に勤めた後に文化財課に勤めさせていただきまして、当時の課長から指定文化財の選定は、散逸の危機があるもの、市史編さんの調査などで新たに確認されて、ほかの自治体なら指定するのに八王子で指定されていないのはおかしいというもの。そういったものを優先するという話がありました。

前回、調査をした候補というリストを上げていただいているので、そちらも合わせて調査をしていただければ私は特には何も言うことはないと思っています。今回は煙滅、もしくは散逸の危機がなくても指定の候補に挙げていこうという意味合いということで、よろしかったですか。

河津主任

収蔵庫に保管されているからいいというのではなくて、八王子市の指定文化財として紹介していくべきものは紹介していこうということで、ここで考古資料を俎上に載せさせていただいた次第です。考古資料はやっぱり後回しでいいよ、という御意見が多数を占めたらそれはそれで、となるのですけれども。今後先生方に御意見を承って、指定を進めていけたらなど、問題提起みたいな形で今回のお話にさせていただきたいのですが。

吉村主任

今後の話についてですが、我々としては過去の調査成果の整理というのが絶対必要であると考えているところです。野嶋先生や岩橋先生のお話にも繋がると思いますが、過去、本市では文化財に関する調査は様々行われており、近年では10年かけて市史編さんを行いました。そういった成果をしっかりと活かしながら、文化財の保存・活用を、あるいは指定を進

めていくべきだと思っています。しかし、文化財課や郷土資料館で長年調査・研究の中核を担っていた学芸員の退職もあり、現状、過去に実施した調査の成果を十分に把握しきれていない部分があります。今後地域計画に基づいて取組を進めていきますが、計画でも重点事業として過去の調査成果の整理は明記したところです。文審の各分野の専門家の先生方の協力もいただきながら調査成果の整理を進めていきたいと思っています。一方で、前回の会議で提出したリストのように、既に我々が把握している大事な文化財もあります。もちろん他にも市内には大事な文化財はたくさんあるでしょうが、漏れているものを埋める作業は調査成果の整理とともに進めていき、既に我々が把握しているリストにある文化財の指定などの話は別にしっかりと進めていくべきであると思っています。

相原会長

ただいま指定候補の提案がありました。今この場で指定するか決定するというのではなく、方向性をまとめてみたいと思いますが、いかがでしょう。

ひとつに、非常に希少価値があるというものを、ある程度保証していく。また、放っておくといずれどこかにいってしまう、紛失してしまうというリスクがあるものをフォローする形で指定していくとよろしいのではないかと私は思うのですがいかがでしょうか。

津山委員

そういう方向性でいいと思いますし、進めてくださって結構だと思います。皆さんがちょっと不安に思っているのは、調査数が多いにも関わらず指定していない期間が長過ぎたというところだろうと思いますので、そここのところの不安を何とか取り除けるような形も今後考えて、方向性としては今のような形で進めてくださっていいと私も思います。

野嶋委員

こういった議論はすごく大事ですけれど、タイムスケジュールを考えると、毎回これをしていくわけにいかないですね。審議会を毎月やるというなら、また話は別ですけども、とてもそんなことはできませんし。年に4回の審議会でどうやって私たちの役目を全うできるかと考えると、事務局はすごい大変な労力になるかとも思いますが、ぜひいろいろ諮問を出していただいて、それのお返事を私たちができるようにしていただければと思います。よろしくお願いします。

青木委員

考古遺物は発掘した後、収蔵庫にしまわれたまま、何かぬか漬けみたいになってしまうものが多いじゃないですか。一度出て紹介されたけど、二度と市民の前に公開されない。今度新しい資料館ができたりすることの中に、文化財を行政の資料としてしまったままにしまわないというような、前向きなことを思い続けていただけたらなと思います。

八王子市には大学がたくさんありますが、学生たちにとってはこういう発掘品に出会える

ことはとても貴重なことです。ですが出会う機会というのは、なかなかないのですね。だからぜひ、大学、あるいはこれは高校でも小学校でもいいと思いますが、そういった場にかかれた審議と文化財の公開というようなことを考えていただけるよう、お願いします。

内野委員

町田市の審議会委員もやらせていただけていますが、町田市は縄文、弥生にかけての考古系の資料というのも八王子に劣らず膨大な量があります。その数万点の資料を画像に取り込んで、3D ミュージアムとして公開して、今、驚くくらいのアクセス数があります。

ですから、指定は指定で着々と検討していくのも必要ですけれども、一方で市が持っている資料も、そういった形で公開する形もあるかと思います。私も最初は、実際の目で見て、というほうが大事ななと思ったのですが、この時代、3D で公開するというやり方も、それはそれでメリットがあるかなと思いました。参考にしていただければと思います。

相原会長

意見が大体出そろったと思いますが、トータルしますと考古資料のこれからの取扱いの方向を加味しつつ、今回候補に挙げた2件については貴重な文化財ですので、指定の方向で進めてよいのではと結論とさせていただきます。よろしく願いいたします。

河津主任

改めて、方向性として、新市史編さんの成果を踏まえて考古資料も今後指定の対象として俎上に載せていく。その前段階として、現在指定されている弥生式土器ですとか、縄文式土器の見直しをかける。八王子の歴史の中で、各時代を象徴するような出土品を指定候補に挙げていく。その中で今、突出して単品で希少といえる2件をまずは指定候補に挙げる。今後、ほかの資料もリストアップするのと、旧八王子工業高校と二商のものを、どう整理し直すか事務局案を審議にかけたいと思いますが、よろしいでしょうか。

相原会長

正式には教育委員会からの諮問を受けて答申をするという形になるわけですが、前段として事務局はこの内容にするということでご提案いただければよいと思います。

その他

相原会長

それでは、ほかに何かありましたら、どうぞ。

加藤副会長

上野町の旧郷土資料館について。建物の管理ですとか、あり方を考えていかないと危ないの

ではないかと思います。子どもが敷地内で遊んでいて、どこか崩れたとか、事故が起きてからでは遅いのではないかと。

それから、あそこに石造物がたくさんありますが、今まではそこに職員がいるから煙滅、散逸しなかった。あれはどのような状態で保持していくかということも考えないと。今はネットで何でも売れる時代ですから、持っていかれる可能性もあるわけです。あそこにある石造物には、指定文化財級のものもあり、市民にとって身近な文化遺産でもあります。新博物館に移送して保存・展示するまで、きちんと保存していただきたい。

学芸員の仕事は、保存・展示・教育のほか多岐にわたっています。職務の遂行には専門性が不可欠で、研究時間の確保が大切です。郷土資料館で発行される紀要や資料集などの刊行物は評価されています。今後も質を維持できるよう、専門職として仕事量ですとか、そのあたりも含めて、ぜひ課長には気を配っていただければと思います。

相原会長

大変だろうとは思いますが、今、加藤先生がいわれたように旧郷土資料館の方も、ちゃんと安全に管理できるようにお願いしたいと思います。

それでは、予定の時間も過ぎましたので、第1回の審議会は終了させていただきます。どうもありがとうございました。

閉会